

薬だっ 知識

12月に入り、インフルエンザの本格的な流行期を迎えました。手洗い、うがい、マスクの着用そして栄養、休養と予防策は万全でしょうか。県内では毎年、インフルエンザの流行による学級閉鎖が報告されますが、学校や幼稚園で流行してしまう原因の一つに教室の換気不足があります。

そこで登場するのが、学校薬剤師です。授業中の教室を訪ねて、二酸化炭素の濃度を計測し、教室内の空気の汚れ具合を調べます。そして、児童生徒にこまめな換気の大切さを伝えていきます。

学校薬剤師は、児童生徒が安心して、そして安全に学校生活を送れるよう、環境衛生保持や施設の安全維持のために必要な検査や指導をしています。検査

5. 学校薬剤師

健康意識の向上に一助



学校薬剤師は教室の二酸化炭素濃度測定で換気的重要性を伝えるなどの活動をする

は、空気や照度（明るさ）、騒音、飲料水・プール水の安全性などさまざまです。そして、検査結果を通して環境衛生の管理と自分の健康について考えてもらう機会を提供しています。

学校薬剤師には、健康教育として「喫煙・飲酒・薬物乱用防止」「医薬品の正しい使い方」などの情報提供をするという重要な任務もあります。

一生をできるだけ健康で過ごすために、①生活習慣病の原因になるものの正体を知ること②体には「自然治癒力」があり、薬はそれを助けるためのものであること③正しく使わないと薬も危険であること④食事をきちんととってむやみに薬やサプリメントに頼らないことなどを教えます。

自分の健康を自分で守るための環境の整え方、体や薬についての正しい知識を子どもの頃から身につけておくようにしましょう。

（鹿児島県薬剤師会常務理事 岩倉ひろみ）